

令和2年7月6日

紫波町議会議長 武 田 平 八 殿

紫波町議会いきいき町づくり常任委員会  
委員長 藤 原 修 一

所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会の所管事務について、調査の結果を下記のとおり、会議規則第76条の規定により報告します。

記

1 調査事件

新型コロナウイルスに係る現状、影響、対策及び課題について

2 調査期日及び調査先

令和2年6月16日（火） 紫波町商工会  
岩手中央農業協同組合

3 参加者

委員長	藤 原 修 一
副委員長	佐々木 純 子
委員	高 橋 敬 子
委員	阿 部 秀 一
委員	作 山 秀 一
委員	箱 崎 勝 之
委員	北 條 喜久男
委員	細 川 恵 一
委員	藤 原 恵 子
事務局	谷地館 勝

4 出席者

紫波町商工会	会長	橘 富 雄
〃	経営指導員	菅 原 宏 一
〃	経営指導員	目 黒 紳 悟
紫波町観光交流協会	会長	高 橋 栄 悦

紫波町観光交流協会	事務局長	作山孝洋
飲食業生活衛生同業組合	紫波支部長	高橋伸

岩手中央農業協同組合	常務理事	畠山進
〃	紫波地域営農センター所長	横沢里史
〃	畜産課長	吉田長裕
〃	園芸特産課長	大弓孝光

## 5 調査結果

別紙のとおり

## 【現地調査先】紫波町商工会

### 1 現状と影響

#### (1) 紫波町商工会

- ・現在、新型コロナウイルスの影響による廃業はない。
- ・持続化給付金オンライン申請の相談事務に時間がかかっている。
- ・新型コロナウイルス関係の相談件数は、3月4件、4月39件、5月41件、6月31件（6月12日現在）
- ・相談合計115件で、主な内訳は飲食業36件、製造業26件、建設業18件であった。
- ・相談内容は、最初は資金繰りが多く、最近は持続化給付金についてが大半である。ウェブ申請に慣れていない高齢の事業者や、揃える書類がよく分からない方のために商工会で操作支援、書類の申請支援をしている。
- ・雇用調整助成金についての相談もある。社会保険労務士を呼んで相談会を開いている。これまで5回開催、7月も毎週水曜日行う。
- ・女性部では社会福祉協議会に手作りマスクを贈呈した。
- ・建設業では、住宅建築において契約直前のものが延期や中止になっている。原因として、新型コロナウイルスの影響で収入が変化し、資金借入計画が変わるためとみられる。

#### (2) 観光交流協会

- ・新型コロナウイルスに係る相談はない。
- ・最大事業の夏まつりが中止になった。今後は、進められる分野を見極めたい。

#### (3) 岩手県飲食業生活衛生同業組合紫波支部

- ・2月末からキャンセルが始まり、歓送迎会有一些ある3～4月の稼ぎ時に大きく影響が出た。
- ・4月末から休業する店が出て、稼ぎ時のゴールデンウィークに休業したため、その後営業しても客足は戻っていない。
- ・昼の営業はテイクアウト等を行い、業態を変えつつしのいできた。
- ・夜の営業は6月に入って少しずつ再開の動きがでてきている。
- ・三密にならないよう席を減らすなど、ソーシャルディスタンスを確保し営業している。従業員はマスクをしている。
- ・持続化給付金は5月1日から受付が始まったが、初日は夕方までアクセスできなかった。組合員は高齢者が多くオンラインの申請が難しい人がある。必要な書類が分からない方のために、相談に対応している。

- ・申請から2週間で入金予定だが、書類に不備があるとメールが来るなどでまだに入金に至らない店がある。
- ・現在、営業している店の半数以上が50%以上の売上げが落ちた。4月の調査時には、平年と比べて、8～9割の売上げが落ち大変厳しい状況である。

## 2 対策と課題

- ・7月イベントを予定している。
  - 7月10～12日 紫波の酒と肴 町内の方々15件程度出店、商工会主催
  - 7月3～10日 ほんに紫波町酔いところプロジェクト 飲食店組合が町内の地酒を購入し組合員の店で提供
- ・プレミアム商品券販売を予定
- ・しわ弁を7店舗で順番に実施。金曜日は役場平均50食、火曜日は銀行30～40食を販売している。

## 3 要望

- ・家賃の補助は町で始まっているが、その後で国でも補助を出すことが決まった。町と国の補助が両方もらえるのか情報が欲しい。
- ・持続化給付金が円滑に受け取れるようにして欲しい。
- ・6月になってから、いづらか飲食に出られるようになった。3～4人のグループで飲食、買い物をしていただければ、商店街の活気につながる。
- ・持続化補助金では、自己負担分が少なくなるよう町独自で助成する制度が欲しい。  
(商工会事務局)
- ・助成金の種類、申請手続きの期限の情報が欲しい。

## 【現地調査先】岩手中央農業協同組合

### 1 現状と影響

- ・ J Aの事業としては、全ての影響を把握していない。
- ・ 畜産に関しては影響がいち早く出た。最初枝肉価格の相場が下落し赤字になり、次に子牛相場も下落した。
- ・ 園芸作物では花きが、卒業式などのイベントが無くなったため価格が低迷している。
- ・ 野菜は、家庭消費があったため価格が安定したが出荷量、価格とも今後は心配である。

### 2 対策と課題

- ・ 肥育素牛導入支援として、現行3万円を改正して5万円とし、町内産子牛導入はさらに2万円追加、町に感謝している。J Aは独自で2万円を上乗せ。
- ・ 持続化給付金支援は、畜産・花き生産者（1～5月販売）に対し、申請支援を行っている。
- ・ 水稲の作付けでは、今年度は酒造好適米を13haに増やしているが、価格の心配があるため現在補助事業を確認している。
- ・ いわちくの肉豚処理加工施設の稼働は豚60%程、こちらも販売促進をしなければならない。
- ・ もちもち牛の販売促進のために、シンセラを通して町のイベントにも参加予定。

### 3 要望

次の事項について、町においても気に留めていただきたい。

- ・ 花きの価格は持ち直してきているが、まだまだ現状に戻っていない。また今後は、輸入の球根、苗の手配が滞ることが心配される。
- ・ 野菜等の流通が盛んになってきたが、新型コロナウイルス対策について万全な対応を行わなければならない。
- ・ 業務用野菜は契約しているので、販売は大丈夫だが価格の安定が望ましい。